

第7日

令和8年3月3日（火）

午前10時零分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は18名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、2日に引き続き一般質問を行います。

それでは、12番中島秀樹議員の質問を許可します。12番中島秀樹議員。

（12番中島秀樹君登壇）

○12番（中島秀樹君） 皆様、おはようございます。質問の許可を得ました12番議員中島秀樹でございます。初めてこの席に立たせていただきましたけども、随分景色が違うなと思って、ドキドキいたします。今日は新しい議場を見学ということで、金川コミュニティの皆様、区会長をはじめ、それから議会の大先輩お二人も来ておられますので、身の引き締まる思いです。

昨日から新しいものを身につけましたということで、熊本議員のスーツ、それから飯田議員のジャケットが出まして、私も何か新しいものがないかなと思っておりまして、私はバッジを新しくしてまいりました。バッジを新しいのをつけていこうと思ひまして、自分の机の上を探しましたら、随分バッジがたくさんあるなあと改めて気がつきました。もう5期、議員をやらせていただきましたので、バッジがそれだけたったなと思っております。

今まで、じゃあ私は何回、どんな一般質問をしたんだろうと思ひまして、この前ちょっとまとめてみました。私、19年、議員をさせていただいているんですけども、病気で、コロナになったりとか、目を悪くしたりとか、それから議長の就任の時期もあったんですけども、数えてみましましたら、62回、質問させていただいております。今日が63回目になります。この63回目、62回の質問の中に、じゃあどれだけ市民のためになったのかなというのは、反省する点が多々あります。準備をするのは大変で、私自身のためにはなったんですけども、じゃあ、どれだけ市民の役に立ったんだろうかということは、毎回反省をさせられます。やはり市民の負託に応え議員としての職責を果たすということが私の使命ですので、それについては反省がたくさんございます。もっともっと頑張らないといけないなというふうに感じております。

今日は前回、12月議会で質問を丸々積み残してしまいました分と、それから朝倉市の課題ということで質問させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

ます。

(12番中島秀樹君降壇)

○議長（小島清人君） 12番中島秀樹議員。

○12番（中島秀樹君） では、通告に従い質問させていただきます。

まずは、一番最初の、朝倉市が発展するためには何をしたらいいのかということで質問させていただきます。

人口減少イコール衰退ではなく、何を続けるかという行政戦略についてでございます。

この質問は、私、よく書店に行って本を買ってくるんですけども、「〈わたし〉からはじめる地方論」という、これ工藤尚悟さんという方が書いた本にヒントを得まして、日本が人口減少の中に向かう中、朝倉市だけが人口が増え続けるというのは、なかなか現実的ではないのかなと思うときがあります。福岡市に近いという、それから熊本にも近い、久留米にも近い、朝倉市は十分それにあらがえる力は、ポテンシャルはあると思っていますが、しかし日本全体で見ていると、人口は2100年には約半分になるというような推計も出ております。

ですから、やはりそのことも考えて、まちづくりというのをやっていかないといけないというふうに考えておりまして、この本を手に取り、こういう考え方もあるんだなと思ひまして、質問させていただきます。下山の思想といいますか、そういったものも必要ではないかなというふうに思っております。もちろん私は、朝倉市の人口維持というのはあらがっていききたいというふうに思っております。流れに逆らって新しい人口を獲得していききたいと思っておりますが、今日はそういった視点の中で質問をさせていただきます。

では、1番目です。朝倉市は福岡からも近く、人口を増加させることも可能だとは思いますが、日本全体で人口が減少していく中、朝倉市が人口戦略で人口を増やさないと駄目だということは、そういうことではないというふうに考えます。このことについて、今、私がる述べましたけれども、いかがお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 国におきましても、地方創生2.0基本構想という中で、当面は生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても、経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていくことが重要であるというふうにされております。このような中、本市におきましても、人口減少が進んでいる状況でございますけれども、一方で、令和5年からは社会増ということになっておりまして、明るい兆しも見えているところでございます。

本市としましては、この社会増につながる取組は引き続き実施をしていく考えでございますけれども、やはり自然減が社会増を大きく上回っているところでございまして、人口減少の流れを完全に止めることは困難であるというふうに考えているところでございます。一定の減少は避けられませんので、人口減少を抑える取組だけではなくて、人口が減少し

でも安心して暮らせる、持続可能な地域づくりの取組が必要と考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 社会増に向かった取組という言葉がございまして、しかし自然減があるので、なかなか厳しいという答弁でしたが、社会増が達成できている、この取組といったものはどういったものがあるんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 移住・定住施策というのを市としては取り組んでおりまして、これまでシティプロモーション戦略会議でありますとか、子ども・子育て戦略会議という2つの戦略会議を設けまして、しっかり取組を進めているところでございます。

また、移住ということで、コンネアサクラというところで移住・定住の相談窓口をしておりまして、例えばお試し居住ということで、移住を考えている方に、短期間ではございますけれども、体験をしてみると、そういった取組を進めているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そうしましたら、部長の答弁の中で、自然減といいますか、自然増のところについては流れに任せるといいますか、致し方がないというようなニュアンスを、私、感じるんですけれども、それは多分構造的な問題だと思いますので、その部分にも、私、メスを入れてやるべきだというふうに考えますが、この自然増・減ですね、このところについての部長のお考えってどういうものがありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 自然減ということで、亡くなる方が多い中、生まれてくる出生数というのがやっぱり少ないという状況でございます。そういったこともありまして、子ども・子育て戦略会議とかで、子どもを育てやすい、産みやすい、そういった取組は進めているところではございますけれども、やはり個人的な考え方ということもございますので、なかなか難しいところではございますけれども、そういった子育てしやすい、子を産みたいという人が産めるような環境、地域で育てたいという人が育てやすい環境というのを、行政としては整えていく必要があると思っていますので、そういった取組を進めているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 構造的な問題が、私、あると思いますので、もちろん年齢構成でいきまして、朝倉市の人口構成をずっと見てみると、やはり若年層といいますか、30歳以下の分というのはずっとやっぱり減っていつていますので、これはもう顕著に減っていつていますので、このところの方々が少なくとも朝倉市から出ていかないような、そうい

う政策が私は必要ではないかというふうに考えております。今、部長の答弁に対して私がリターンを打ったような形になって、突然の質問でびっくりしたと思われるんですけど、私はそんなふうに考えております。これも個人的といえれば個人的なのかもしれませんが、これも。

では次に、朝倉市は田舎で自然豊かで牧歌的であると考えます。そういった朝倉市のいいところを私は守っていきたいと思っております。人口を増やそうとするのではなく、下山の思想で、今ある朝倉市のよいところを残し、続けていけばよいと思いますが、何を残しておくべきかと考えるかということを質問いたします。

私、今回いろいろ騒ぎになりました中国マンション問題で、ネットとかを見ていると、朝倉って自然が豊かで、水がきれいで、フルーツのおいしいところでいいところだ、だからそういうところは守っていかないといけないという書き込みが多いなというのを気がつきまして、改めて朝倉のよさというのを気づかされた、そして朝倉というのは、周りからそういうふうに見られて、大切に思われているんだということを改めて認識させられました。

そういった中で、私は、この朝倉の自然というのは、牧歌的なところというのは大事なところだと思うんですが、でも朝倉は自然だけではなく、いろんないいものがあるというふうに思っております。何を残していくのがよいというふうにお思いでしょうか、質問いたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 何を残していくのかということでございます。人口減少が進む中で未来の朝倉市に残すべきことということで、取りあえず3つ代表的なものとして考えているところがございます。

1点目としましては、先ほど議員も申されましたが、豊かな水と緑に囲まれ、ゆったりした空間、自分らしい暮らしができるという自然環境ということで考えております。中でも、水というのはやっぱり貴重な資源ということでございまして、市民の暮らしに多大な恩恵をもたらすというものでございます。本市は水とともに発展した歴史というものがございまして、朝倉の魅力を水なしには語れないというふうに考えているところでございます。

2点目としましては、市内の多くの地域に今も残ります、歴史でありますとか文化的な資源だというふうに考えております。それは単に観光資源というだけではなくて、その地域の地域らしさを象徴するというものであると考えております。人口が減少しましても、地域の物語を消すことなく次世代に継承することが必要だというふうに考えております。

3点目でございますが、人のよさだと、朝倉市の人のよさだというふうに考えております。本市は、平成29年7月の九州北部豪雨におきまして、いろいろな被害を受けましたし、それ以降も幾つもの困難を市民の皆さんと共助の力で乗り越えてきたところでございます。

人口が減少したとしましても、例えば隣近所で声を掛け合うとか、助け合うといった地域性を残すことが安心して暮らしていけるということだと考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、3つ部長のほうからございました。水と緑、それから歴史、人のよさというのがありましたけども、この3つ、初めて聞きましたけれども、私は、この中の1つ、歴史についてお話をさせていただきます。

去年、秋月400年ということで大変盛り上がりをして、あれは本当にすばらしい行事だったなと思っております、藩校サミット。ただ、あれをあそこで1回限りで終わらせてしまうのはもったいないなと思っております。せっかくあそこまで盛り上がりましてので、私は継続していくべきだというふうに考えますが、そういった仕掛けといいますか、そういったおつもりはありますでしょうか。どういったように、部長、政策的にお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 秋月の400周年のイベントとか藩校サミットというのは、大きなイベント的なものとして実施をしたわけでございますけれども、こういったものが各地域に広がっていかなければいけないと思っています。それぞれの地域で、やはり、この大きな秋月とか、いろんなところがありますけれども、それぞれの地域でも、それぞれ歴史でありますとか、資源というのがあります。そういったものは、やはりその地域を形づくっているものでありますとか、そこで育った人たちのアイデンティティーといいますか、つくり上げてきたものでございますので、そういった地域の掘り起こしというのが大切だというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私、秋月の400年につきましては、早い段階から準備をして、旗を立てられて、やるぞということでアナウンスもされて準備をしてきたと思うんですね。ですから、あれを、あれで終わらせるのではなくて、次の私は旗をやっぱり立てていただいて、そういうふうに各地域の部分をやっていくというのであれば、やはり3つの大事な守りたいものであるのであれば、政策部長として、そこら辺のところは仕掛けを打っていただきたいなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、朝倉市の何を残していくべきかを打ち出して、それを進めていくことが必要ではないかというふうに、私は考えます。要するに仕組みですね、それを進めていく。何がいい、何がいい、何がいいというのはあれですけども、それをアナウンスして、そしてそれを残すということを進めていく。これ、いろいろ何を残すかというのは議論があると思うんですけども、私は朝倉市の、例えば今、誰でも多分入るのは、水は絶対入ると思うんですけども、そういったことを、じゃあ水を残すんだったら、水を残すということで、

それを進めていくことが私は必要だと思いますけれども、いかがでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 先ほど、これまで申し上げたもののほかにも、もちろんたくさんあると思います。今年度から来年度にかけまして、令和9年度から始まります第4次の朝倉市総合計画の策定作業を進めているところでございますけれども、その総合計画も総合戦略と一体化をするということにしております。その中で、朝倉市の目指す姿について、これまで述べさせていただいたような考え方についての議論も、その場で行っていきいたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そしたら、そういった今から進めていくということですが、どういった手順で進めていくんでしょうか。要するに今から庁内で話し合うということなんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） これから市民を交えた、まちづくり審議会というのを設置しまして、その中で議論をしていくということにしております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 先ほど部長が言われました、人のよさというのもあったと思うんですが、私も、朝倉というのは穏やかで思慮深い方が多いのかなという、そういう印象を持っております。朝倉の人方はいい方、いい人が多いなというふうに思っております。そういった中で、私は、地域住民とともに政策を進める、政策づくりが必要ではないかと思っております。要するに朝倉市はこっちの方向に向かっていきますよというような、その方向性の共有が必要だと思いますけれども、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 議員おっしゃるとおり、地域とともにする必要があると思っています。そういったことも含めまして、今後の総合計画等の作業の中でも議論をしていきいたいというふうに思っているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私は、地域住民と対話をしていくような、そういったことがやはり継続的に必要ではないかというふうに考えております。やはり地域の意見を聞いてやっていくというのが、私は必要ではないかなと思っております。

先日、ナマオケバトルがありまして、あれって本当にコミュニティの力といいますか、地域の底力を感じさせるいいイベントだったなというふうに思っております。ああいうコミュニティの力を生かして、やっぱり朝倉の強みってコミュニティの強みにもあるのかなということを改めて認識をいたしましたので、私はやはり地域と継続的な対話をする仕組

みが必要だと思っておりますが、この「継続的な」ということをキーワードにいたしますと、継続的な対話の仕組みというのはつくるおつもりはありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 議員おっしゃるとおり、地域との話合いというのは十分必要だと思っています。基本的には17コミュニティというのがございますので、それぞれの地域で特性とかもちろん全然違いますし、そういった中で地域の特性をいかに生かしていくかというところは、行政としてもしっかり話を聞きながら進めていかなければならないというふうに感じているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 少し脱線しますが、ナマオケバトル、本当にいい行事だなと思ひまして、楽しませていただいたんですけども、ナマオケバトルって、そもそもどういった流れでできたイベントなのかをお尋ねしたいんですが、副市長、どういった流れでできたイベントなんですか、教えてください。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） ナマオケバトルにつきましては、令和7年度の予算編成時期だったと思いますけれども、市制施行20周年記念事業に向けまして、市長から指示がございました。総合政策課をはじめ全庁的に申されたんですけども、20周年事業自体が、市外向けではなく、基本的には市内向けにやっ払いこうと、20周年を祝う事業であるために市内向けでやっ払いこうということでございました。

そういった中で、特に一体感の醸成ができないかというようなことを申されまして、様々な企画を各課のほうが行してくれました。

その中では、文化・生涯学習課がコミュニティ単位などでカラオケならぬナマオケバトルをすると、生バンドのカラオケをするということで、それを企画してくれまして、非常に楽しく盛り上がりました。当初の目的を一定達することができたのではないかと考えているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 本当に各コミュニティ力が入っておりまして、私、たまたまなんですけども、三奈木コミュニティの練習しているところに出くわしまして、それはそれはもう本当に力が入っているなとびっくりした思いなんですけど、あのイベントというのは、ああいうふうにコミュニティが一堂に会してやるということは今までなかったのではないかなと考えております。もちろん20周年という節目のイベントだったとは思ひうんですが、私は、あれは、大変でしょうけども、継続してやっ払いいくべきではないかというふうに勝手に考えているんですけど、予算面それから人員面でも負担は大きいと思ひうんですけど、でもコミュニティ同士がコミュニケーションを取るといふのでは本当にいいイベントだといふ

ふうにと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） そういううれしいお声を多数いただきました。片や、やっぱり大変だったというお声も伺っております。そういったまた地域の声を聞かせていただきながら、今後については考えていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 先ほど私言いましたように、朝倉市の強みというのは、やはり各コミュニティがしっかりとしているというの、これ強みとして絶対あると思うんです。

ただ、それが、各コミュニティはそれぞれ強い。けどもそれは部分最適であって、じゃあ全体的に見たときにどうなんだろうかというのを、私はそこをバランスを取って、コミュニケーションを取ることによって、もっと全体的に、アメリカの連邦制じゃないですけども、それが集まることによって、それからコミュニケーションを取ることによって、朝倉市全体が強くなっていくんじゃないかと思っております。俗に言う横串を通すといいますか、そういったコミュニティ同士が交流する。

どこでしたか、ちょっとすみません、はっきり覚えていないんですけど、上秋月の出るときに応援の方がいらっしゃらなくて、秋月コミュニティの方がたしか応援をしたというふうに記憶しているんですが、そんなふうに、そういった横のつながり、そういったのが発露するいい機会ですので、ぜひとも大変でしょうけども、似たようなイベント、それからナマオケバトル、可能であれば、続けていっていただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、私は、各コミュニティ、それから先ほどから出ている若い人、構造的に若い人が出ていかないようにするとか、それから穏やかな市民とかが生き生きと個性を持って楽しく、朝倉に残るのが楽しいんだと、自分は朝倉に残りたいんだというようなそういった雰囲気醸成していくのが、私は必要じゃないかなと思っているんです。

私は、朝倉を、関わって、朝倉に貢献する、それとか朝倉で挑戦をするとかいうようなそういった前向きな人材というか、市民が増えることを望んでおります。

目的は、挑戦者が増えるということです。私はそういったチャレンジする機会や制度をつくらないかと考えております。例えば、若い人が1か月だけ出展できるとか、そのような機会を設けたり、制度を創設することによって、スモールスタートでそういう市民が朝倉で活躍する。そういった場を、機会をつくるべきだというふうにお考えですが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 朝倉市では、市内居住予定者などが市内で新規に創業する際、創業に係る費用の一部を補助する、朝倉市創業支援補助金により、創業や新規開店の支援を行っております。

平成29年度から、新規創業に関する経費の2分の1、上限50万円を補助するものでございます。

毎年4件から9件の申請がございまして、令和7年度現在で合計54事業者、年平均6事業者から申請が上がっております。業種や場所にかかわらず補助を行っているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 先ほどの農林商工部の事業のほかにも、女性の就業支援という立場からでございますが、趣味とか特技を起業に生かすチャレンジ的な起業応援セミナーを男女共同参画推進室のほうでは実施をしています。このほかにも、町と協働して事業を実施する団体に補助を行うというような提案公募型の協働事業というものでございますとか、地域の魅力の創出、それから地域を元気にするアイデアを登録して、そのアイデアを実施する団体に市が支援をする魅力づくり活動支援事業、CANOW PROJECT（叶うプロジェクト）と言っていますけども、そういったものがございます。

また、令和5年度と6年度には、秋月藩成立400年記念イベントの企画のときに公募をしまして提案事業をしたということ、それと今年度は市制執行20周年記念事業の一つとして、郷土愛とか地域の一体感を醸成するということで、市民提案事業というのを実施をしました。

また、先日の14番議員の一般質問の中でも、都市建設部のほうが回答しましたけれども、朝倉の町なかをもっと面白くしたいとか、そのために何かを考え行動したいという人を公募をしまして実施をしています、まちづくり学校というのが昨日説明しましたけれども、それについては市内外から約20人と、昨日も説明があったと思いますが、参加をしまして、イベントの実施とか、創業につながる取組をされてあります。

参加者の中には、地域課題に主体的に取り組もうとする人とか、小規模ですけどビジネスの創業を志すという人も現れているということでございます。

こういった市民の様々な主体的で意欲のあります、ちっちゃいことやっても、そういったチャレンジの取組を支援するといったことで、地域の活性化につなげていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） いろんな制度があると思います。先ほど部長がおっしゃいましたように、小さいけれどもチャレンジするような人を増やすということでした。本当にいい取組だなと思うんですが、往々にしてよくあるのが、制度としてはあるけども書類をいっぱい出さないといけないとか、それとかサポートがないとか、そういったので、制度としてはあるけど使い勝手が悪いとかいうことがありがちなんですが、この点についてはちゃんとサポートができていんでしょうか。スモールスタートが本当にできるような仕組みなんですか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 現段階においては、やはり書類とかいったものがどうしても必要になりますので、こういったことも、例えばDXですとか、書類を減らすとか、そういったハードルというのを少しでも下げられるような取組は進めていきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） できるだけハードルを低くしまして、チャレンジできるような、そういったのがたくさん目に見えるような形で朝倉市に広がっていけばいいなというふうに感じております。

では、次の質問をいたします。地域における住民や団体に対して、住民や団体と行政、それから住民と住民、団体と団体をつなぐようなコーディネーターの役割。先ほど言いましたように、コミュニティとコミュニティをつなぐとか、コミュニティとPTAをつなぐとか、PTAと消防団をつなぐとか、そういった人口減少ですので、数もたくさんいませんのので、そういう集まりというのは大事に私はしていかなければいけないと思います。

市の職員の皆さんというのは非常に信用がありますので、この信用力を生かして、調整型ではなくて、共につくっていく共創型の人材を配置したらどうかと、そういうふうに思っています。そういうのが必要ではないかなと思っております。

企画の提案をしたりとか、関係の構築とか、それから住民との対話の専門性を持った人材、こういった人がいると、もっと朝倉が活性化するんじゃないかと思いますが、そういった市で人材を設置することはできませんでしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務財政課長。

○総務財政課長（保坂厳憲君） 今、議員がおっしゃられました地域の団体、それと住民同士、団体とか行政、そういったものを結んで支え合いの輪を広げていくということは、非常に地域を盛り上げる上では大変大事なことだと思っております。

その新たな係を設置する。例えば地域ごとの担当職員を張りつける。そういったことも一つの方法ではございますけれども、コミュニティ組織、そういった担当者、各団体の担当者、組織というのはいろいろ各担当課に分かれておりますので、そういった業務の担当者がこれまで以上に地域に団体に入って連絡を密にするというのは大前提だと思います。かつ、その担当職員間の連携、これも非常に大事だと思っております。今、おっしゃられました住民と行政、こちらのほうが一緒に知恵を絞って地域づくりの取組を進めていくということが必要だというふうに考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私、こだわり過ぎなのかもしれませんが、ナマオケバトルが私、イメージとして強くあるんですね。ああいうふうに各地域が積極的に盛り上がっていく。そしてそれが朝倉市全体に広がっていく。そして結構大胆な応援とか、そういった演出も

ございましたので、そういったイメージを私は持っております。これをせっかくいい事例がありましたので、これが朝倉市全体に広がっていけば、朝倉市の活力をもっともっと増やすことができるんじゃないかというふうに考えておりますので、ぜひともそういった仕組みをつくっていただきたいというふうに思っております。では、この質問は以上です。

次に、朝倉市の現状認識と課題についてを質問させていただきます。

まず、朝倉市の現状をどのように捉えていらっしゃいますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 現状でございますけれども、基本的なデータということで申し上げますと、まず人口、今年の1月末時点では4万9,422人というところでございます。あと高齢化率が36.2%ということで、3人に1人が今、高齢者ということでございます。過疎地域におきましては、さらに高齢化率が43.5%という状況になっております。

人口動態で言いますと、先ほどから申し上げますように、令和5年に転入が転出を上回る社会増というところになっています。

あとは、令和6年6月の人口戦略会議のレポートにおきましては、消滅可能性自治体からの脱却というところで、データのなところで回答させていただきます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私、人口減少というのは、先ほど申し上げましたように、日本全国的なものなんですけれども、この現状を素直に、ああ、そうですかと言って受け入れるわけにはいかないんです。やっぱりそれにあらがっていきたいと思っております。

やはり、もっともっと議員や行政が知恵を絞って、朝倉市の発展のために尽力をしないといけないというふうに思っております。

地域を回っていますと、私、今日ここで一般質問させていただいているんですけども、多分西日本で唯一のイギリス型の議場だと思います。もう本当に質問していても心地よいなというふうに思うんですけども、でも地域を回ってましたら、やはり立派な市庁舎ですねと、この前入って、そういうふうに言われます。けども、中島さん、もっとお金を別に使うところがあったんじゃないかなということで、皮肉を言われることもあります。ですから、やっぱり市民というのは厳しい目で見ておりまして、その費用対効果というのは必ず求められるというふうに思っております。ハードが立派なもの如果能したら、そこに入っているOSといいますか、ソフトを強いものにしていけないと市民の理解は得られないと思いますので、この現状に私は甘んじるべきではないというふうに思っております。

では、そういった中で、いろいろ、今、現状をおっしゃられました。そしたらそこに課題があると思うんですけども、朝倉市の課題というのはどのようにお考えでしょうか、お

尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 課題ということで、幾つかあると思っています。まずは先ほど申し上げましたような現状を捉えまして、人口減少、少子化というのは大変大きな課題だと思っています。

人口減少、過疎地域の急激な人口減少、それから出生数が減少しているということが課題だと思っています。このほかにも財政の健全化というところもあろうかと思っています。

それから災害復旧、それから治水対策というのはやはり平成29年災害、それから令和5年災害、そういったものも受けましたので、そういった災害復旧、それから治水対策、今後の治水対策ですね、そういったことも大切だと思っています。

このほかにも、農業の担い手不足でありますとか、医療介護福祉でありますとか、地域公共交通とか、教育問題、それから地域コミュニティの衰退といったところも上げられるかと思っています。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） うちの自治体は課題が一つもありませんというような自治体は多分ないと思います。しかし、やはり朝倉市には課題がたくさんあるのかなと、今、上げていただいただけでも、どれもこれも重たい課題だなというふうに感じております。

この課題を朝倉市の議員と職員は挑戦して解決していかないといけないと思っているんです。先ほど申し上げましたように、やっぱり市民は見ています。ですから、その挑戦する姿勢というのを市民に、私たち議員も、それから職員の皆さんも見せないといけないと思っています。それが必要です。

そういった中で、では、この課題を解決していくためには政策が必要だと思うんです。今、WBCで大谷翔平選手が来日されていますけど、大谷翔平選手の、聞かれたことあると思うんですけど、マンダラートと言って、正方形の枠の中に、縦2本、横2本、要するに9つの升があって、真ん中に、ちょっと言うなら、自分はこういうことをしたいと。そのためには、これとこれとこれとこれとこれをやらないといけないという8つのことを埋めて、大谷翔平さんはその升を幾つも持って、それを若いときから、高校生ぐらいのときからやっていたということなんですけども、じゃあ例えば担い手不足というのが真ん中に来たとしたら、そのために8つの、今のこのマンダラートの例でいくと、8つの政策というのが必要だと思うんですね。少なくとも1つの政策では私は簡単には解決できないと思いますので、やっぱり3つ4つはないと簡単には解決できないのかなと思います。

では、解決するために、1つでもいいですから、こういった有効な政策といいますか、政策をお考えなのかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 人口減少というところにつきましては、やはり人口減少は自然減が進む中では止められませんので、地域の活性化のためにはやはり関係人口の取組が今後重要だというふうに考えておりまして、そういった取組を今、シティプロモーション戦略会議とかでしっかり取組を進めているところでございます。

そのほかの件につきましても、今後、総合計画を今策定の準備をしておりますので、そういった中で、戦略会議も含めた総合計画を策定しておりますので、そういった中でしっかり議論をしていきたいというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私は、今からそういう策定をしていくのであれば、やはり課題できちっと明確して、しかもそれに優先順位をつけて、一遍に10も20もはできませんので、それで課題に濃淡をつけて一つ一つ解決していくのが、私は一つの解じゃないかなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

とにかく朝倉市自身がチャレンジしていかないと、自治体間競争の中で生き残っていくというのは大変だと思いますので、職員として、部長としてチャレンジしていただきたいというふうに思っております。

次に、市長のほうにお尋ねをいたします。ちょっと厳しいお話になるかもしれませんがけれども、昨年の12月議会におきまして、市長の今後に関する質問がございました。その中の答弁の中で、「老兵は刀を置き去りゆくべきか、それとも再び刀を研ぎ振り続けていくべきか、本当に迷いましたが、熟慮の結果、先頭に立ち、刀を振り続けていくとの思いに至り、これまで培ってきた人脈や人間関係を総動員して安心安全なふるさと朝倉にしていきたい」と抱負を述べられました。

しかし、そこには過去の総括や未来への展望といったものがありませんでした。私は残念に感じました。総括と展望のない意思表示はリーダーとして説明が十分とは言えない印象を持っております。

もう少し具体的にかみ砕いて言いますと、林市政の2期8年を振り返って総点検することから、達成できたものと未達成のものを振り分けて、仕分けして、整理し、3期目に向けた重要課題を抽出していくという作業を丁寧に行っていくということです。

そのような中から朝倉市の最も重要な課題を戦略課題として位置づけ、挑戦していくべきと私は強く感じます。

私が先頭に立ち刀を振り続けていくことが市のためになると言われるのであれば、その段階で、私の考えるこの政策を遂行していくことが、このような理由で朝倉市に活力を呼び戻し、市のためになると述べられるのが必要ではないでしょうか。最も大切な前段の理由が聞けませんでしたので、私はその説明が必要だと考えております。

本市におきましては、それぞれが朝倉市の活性化の戦略課題を設定し、そのことを中心に論戦を展開していく姿こそが求められていると私は考えております。朝倉市の活性化を

熱望するならば、政策論議中心であるべきと考えております。主張する戦略課題を堂々と打ち出しながら市民の理解と選択を獲得していく。このような市民との協働作業が私は必要だと感じております。

市長、私が思いを一方的に述べさせていただきましたけれども、私は市長が結局どういったことを課題にしているかというのが12月議会でなかったということが少し残念だったなと感じております。これについては、いかがお考えかお気持ちをお聞かせいただきたいと思います。と思っております。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 12月議会で議員さんの質問に対しての答弁については、あれはあれでいいと私は理解をしているところであります。

全部がそうとは言わないけれども、通常、やっぱり骨格予算ですよ。まず議会で議論するのは6月議会だろうと、通常そんなふうに私は理解をしておったということが一つございます。

それから当然、立候補を表明しておりますので、具体的ないわゆるマニフェスト、これはもう今大体つくっております。ただ、選挙事にかかわりますから、その内容を詳しくは申し上げることはできませんけれども、大きくは、一つはやっぱり災害を受けた朝倉市でありますので、これから議会の皆さん方も一緒になって応援していただきました。市民も協力をしていただく中で、災害復旧を大きく進めてきたところでございます。

ちょっと具体的に言えば、例えば、赤谷川それから桂川ですね、これは大体もう安全な形になってきたということがありますけれども、まだ残っているところがあるんです。佐田川については、いろいろ昨日も質問いただきましたので説明したとおり具体的にその作業に入っていると。ところが小石原川についてはそうではないという状況でありますので、これはまさしく、これまでの私の経験を踏まえて、関係、国に対してもあるいは水資源機構に対しても、福岡県に対しても、強い信頼関係の中でやり取りをしながら具体的に事業を進めてきておりますので、このことについて、まず私がやらなければいけない一つのことだろうというふうに思います。いわゆる安全安心を確実にしていくということが一つあります。

もう少し長くお話をさせていただければ、まさしく朝倉市は3つのダムがあります。そして小石原川ダムが現在の渇水状況ですね、干ばつという形で農業の面では言いますけれども、これに今非常に効果を発揮をしてきたというのもあります。

この3つのダムを十分に活用して、そして今ダムがもたらすものを災害からの復旧復興と、逆に考えまして、やはり朝倉の3つのダムは宝なんですね。これを大本にして朝倉市の活性化につなげていくということで、昨日答弁をいたしましたけれども、水力発電をやっていくということ、それから寺内ダムで行っておりますダムの再生、これを小石原川、江川ダム、それから3つのダム。寺内ダム。含めたところの新たな、新たなダム再生事業

ということをやっていただくという形にはなりますけれども、そのことを3つのダムを活用して、さらに朝倉の3ダムの効果を大きくしていくと。治水・利水・環境、それをやる。これはもう具体的に今までやってきている分もありますので、これをきちっとやっていく。今が一番大事だというふうに捉えられますので、これをぜひやりたいというのが一つです。

もう一つは、やはり地方創生、朝倉創生、人口減少を抑制をさせると、自然のまま減っていくということでは当然いかなわけでありますから、これに全力をいろんな施策を総動員しながらやっていくと。具体にはあまりはっきりしたことは述べにくいところがありますので、述べませんが、子どもの成長を子どもが元気に伸び伸びと世界に向かって育っていくような子育て環境、あるいは教育の環境、整備、そして働く世代がやはり子育てをしっかりとやるような施策を新たに今までやったやつを総動員しながら、新たにつくっていく部分も含めてやるということと、輪切りにして話していますけれども、一定の高齢者、あるいは福祉を必要とされる方々も含んでもいいかと思えますけれども、そういった方々が必要な手当を受ける医療、それからもちろん介護、それから福祉サービス、そういったものがきちっとできるような環境を、朝倉市として、これまでもやってきた部分が当然ありますので、これをやっぱり総じてやっていくと。

それから、朝倉市民がやっぱり笑顔を持って、そして安心して生活できる、将来に希望が持てる朝倉市、これをつくっていきたいということを考えている次第であります。

人口減少、何か質問があるとでしょう。（発言する者あり）

そういうことを考えている次第であります。一番大事なのは、私はやっぱり人ということになっていくんだろうというふうに思っております。

まちづくりについてもそうだし、そして福祉医療分野についてもやっぱり人ですよ。そして市の職員を考えたときに、市の職員が提案制度とかで、かなり意見を述べてくれるような状況にはなっておりますけれども、これをさらに進めて、そして、それぞれの仕事をきちっとやってもらうということプラス、やはり行政の目的は市民の安全安心をはじめとする産業面それから福祉の面、そういったことをきちっと対応するということが基本でありますので、こういったことをしっかりとやっていくということと、それと朝倉市のこれから先を考えて、能動的に考えることができて活動ができる、そういう人材の育成とそういう仕組みづくり、これ大事ですので、そういったことには力を入れていきたいということで考えております。

どうなるか分かりませんので、4月何日かはですね、今の段階で議員の御質問に答弁をさせていただきましたのでよろしくお願いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 首長と議員ということで政策的な論争をさせていただきました。

もう時間があと3分ぐらいですので、最後にちょっと私が考えることを述べさせていただきますと思っています。

まず、現状認識で、朝倉市の現状を他の市町村、近隣の市町村と比べてまいりますと、うきは市、筑前町、大刀洗町などがありますけれども、本来この近隣市町村を朝倉市というのはリードすべき存在であると私は考えております。しかし、これは私の肌感覚なんですけれども、市民の皆様はやはり近隣の市町村にリードされていると負けているといったことが多く聞かれるような気がします。企業立地やフルーツの里、観光、子育て政策、これらについて先行されていると私は感じております。これを総合的に考えて、私はこれからの朝倉市の方向性というのは、若者に残ってもらう、若者に選ばれる町、若者の流出を止めるということが最大の政策課題であると、戦略課題であるというふうに考えております。

私は朝倉市が若者に選ばれる町にしたいというふうに考えておりますので、最後まで職責を果たしていきたいと思っております。

もう時間もなくなってまいりました。以上で私の質問を終わらせていただきます。

○議長（小島清人君） 12番中島秀樹議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午前11時10分から再開します。

午前10時59分休憩